

L05b

アジア太平洋地域小惑星観測ネットワーク APAON の構築

奥村真一郎, 浦川聖太郎 (日本スペースガード協会), 吉川真 (JAXA), 渡部潤一 (国立天文台), ほか APAON メンバー

天体の地球衝突問題の対策 (いわゆるスペースガード) は人類にとって重要な課題であり国連でも議論されてきたが、2013年2月のチェリャビンスク隕石の落下によりその重要性はさらに認識されるようになった。現状、地球接近小天体の発見の多くは米国本土とハワイの観測による成果である。新発見天体は発見後速やかに追跡観測を実施しないと見失ってしまうことがあるが、米国・ハワイで発見された天体の追跡観測という観点でアジア・太平洋地域での観測は非常に重要である。しかしこの地域では、このような追跡観測が組織だって実施されることはなかった。

そこで我々は、アジア太平洋地域の観測所、研究者のほかアマチュアの天文観測家にも呼びかけ、地球接近小惑星をはじめとして小惑星観測への取り組みをこの地域で充実させる事を目指し、小惑星観測ネットワーク APAON (Asia-Pacific Asteroid Observation Network) の構築を進めている。現在、日本の他タイ、インドネシア、マカオ、台湾、中国、マレーシア、ウズベキスタン、モンゴル、韓国、チリにある観測所の協力が得られている。APAON の構築によりスペースガード的な観測に留まらず、多種多様な観測装置による科学観測やアウトリーチ活動の進展も期待できる。本講演ではこれまでの APAON の取り組みと今後の展望について発表する。